

この切妻本瓦葺の門が正確にいつ完成したかは不明であるが、瑞巖寺の本堂と同じく 17 世紀初頭に建てられた可能性が高い。六角形のペンダントが各切妻を飾り、2 重パネル式の小石が詰められたドラム壁（太鼓塀）が門の両側から延びている。壁の名前は叩いたときの太鼓のような音にちなんで付けられた。門は宮城県の重要文化財に指定されている。